

普通階・無窓階 判定書

特記:

算定日 年 月 日

算定者

防火対象物名称

(階)

床面積(m ²)	必要開口面積	有効開口部合計	判定結果	消防機関判定
A	A÷30= 0.00 m ²	a~m 0.00 m ²		

有効開口部算定表										消防機関使用
建具記号	開口部の位置	開口部の種別	ガラス種別 ガラス厚さ(mm)	床面からの高さ(m)	幅(m)×高さ(m) =	数量	大型開口	開口部の面積小計	備考	判定
					× = 0.00 m ²			a 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			b 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			c 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			d 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			e 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			f 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			g 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			h 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			i 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			j 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			k 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			l 0.00 m ²		
					× = 0.00 m ²			m 0.00 m ²		

☆有効開口部が面する通路の位置及び幅員(有効幅員1m以上)を配置図等に記入すること。
(通路は、避難及び消火活動に支障がないもの(工作物、低木等がない状態))

☆算定に使用した開口部の建具表及びキープランを添付すること。

注 意 事 項

(階)	算定する階を記入すること。基準階であれば複数階を記入することも可。	
床面積	算定する階の床面積を記入すること。	
必要開口面積	床面積を 30 で除した数を記入すること。	
有効開口部合計	「有効開口部算定表」の「開口部の面積小計」の合計を記入すること。	
判定結果	算定した結果により、普通階又は無窓階を丸で囲むこと。	
消防機関判定	消防機関にて記入するので、記入しないこと。	
「有効開口部算定表」		
建具記号	平面図(キープラン)に対応したものであること。 平面図等に算定箇所がわかる記号を附すること。	
ガラス種別	普通・網入り等を記入すること。	
ガラス厚さ	複層・合わせ等のガラスを使用するものは各個の厚さを記入すること。 合わせガラスは中間膜についても記入すること。 軽量シャッターはスラット厚を記入すること。	
開口部の種別	引き違い・FIX・突き出し・回転等の開口部の種別を記入すること。 シャッターは重量・軽量の種別を記入すること。	
床面からの高さ	m にて記入すること(窓下端が1.2mを超える開口部は有効にはなりません)	
幅 × 高さ	有効開口部の大きさを算定すること(各階大型開口部2か所以上必要) ※大型開口部とは直径1m以上の円が内接することができる開口部、又は幅75cm以上、 高さ120cm以上の開口部。	
数量	数量を記入すること。	
開口部の面積小計	幅 × 高さ × 数量	(ただし、種類や厚さによって有効開口部として算定できるかどうかまでは判断できませんのでご注意ください。)
備考	飛散防止フィルム等を使用するものは材質及びフィルム厚を記入すること。 シャッターは水圧解錠、水圧解放、非常電源の有無についても記入すること。 その他必要と思われる事について記入すること。	
消防機関使用	消防機関にて記入するため、記入はしないこと。	